



Googleドキュメントで英語の音読を音声入力する



記録したGoogleドキュメントはGoogle Classroomから提出できる

活用場面

一斉学習
教師による教材の提示

個別学習
個に応じた学習
家庭学習

協働学習
発表や話し合い
協働での意見整理

活用した機器等
Chromebook

活用したアプリ等
Googleドキュメント
Google Classroom

学習のねらい

- 適切な発音・アクセントを習得するとともに、音読活動における生徒の主体性を涵養する。
- 音読活動を繰り返すことで、4技能5領域のパフォーマンス向上を図る。

学習の流れ

導入	<ul style="list-style-type: none"> Teacher Talkを通して、教科書本文の内容に対して興味・関心を持つ。 初見で教科書本文を音読してみる。 	<p>興味や関心を高める</p>
↓		
展開	<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の語彙・表現、発音、文法事項を学習する。 教科書本文を音読する。 カタカナ発音では音声認識されない"L"の発音の仕方(meal / calculate / health など)に注目し、音読の技能を高める。 本文を活用した言語活動(リテリングなど)を行う。 	<p>思考して問い続ける</p> <p>協働して課題解決する</p>
↓		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 単元のポイント(語彙・表現、発音、文法事項)を再確認する。 	<p>振り返って次へつなげる</p>

ここでICTを活用！

※すべての項目でGoogleドキュメントを使用

- ①初見の英文を音読するときに、音声認識機能を活用して文字起こしをする。
- ②適切な発音で読めなかった箇所にハイライトを入れる。(未知の語彙・表現は異なるハイライト色を用いる。)
- ③②について、クラスメートと協力しながら適切な発音についての相談・確認をする。
- ④新出の語彙・表現、発音、文法事項を学習したあと、②のハイライト部分に留意しながら再び音声認識機能を活用した音読を行う。
- ⑤"L"の発音の仕方を学習したあと、適切に発音できるようになるまで、②～④を何度も繰り返す。
- ⑥リテリングやパフォーマンス課題等においても、同様の方法で記録する。
- ⑦記録したGoogleドキュメントはGoogle Classroomで提出することもできる。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

- 適切な発音で発声できているかどうかを人間ではなく機械が判定するので、生徒は恥ずかしがらずに活動できる。
- 生徒は、適切な発音であると判定されるまで、自ら繰り返し音読を試みようとする。
- 国際的に伝わる程度の発音であれば適切に音声認識されるので、生徒にとってもめざす規準が客観的で明確である。
- 音声入力を通じて単語が視覚化されることにより発音とつづりが結びつきやすくなり、「書くこと」の技能向上にもつながる。
- 操作が簡単であり、自宅学習においても活用できる。
- Google Classroomで提出可能なので、音読テストやパフォーマンス課題の記録としても活用できる。
- 生徒がつかまずきやすい発音のデータを蓄積することができる。